

船橋地区漁場造成（碎石覆砂）のアサリ資源に対する効果調査結果

船橋市漁協ではアサリ資源の増大を目指し、天然の石を破碎した碎石を漁場の一定範囲に敷設する碎石覆砂に取り組んでいます。これまでの調査で碎石区ではアサリ稚貝の集積・保護効果や餌料環境（付着珪藻）の改善効果が確認されています。

1 碎石覆砂実施状況

平成 29 年度から令和 2 年度にかけて、以下の 4 ヶ所で碎石覆砂を実施しました（図 1、表 1）。

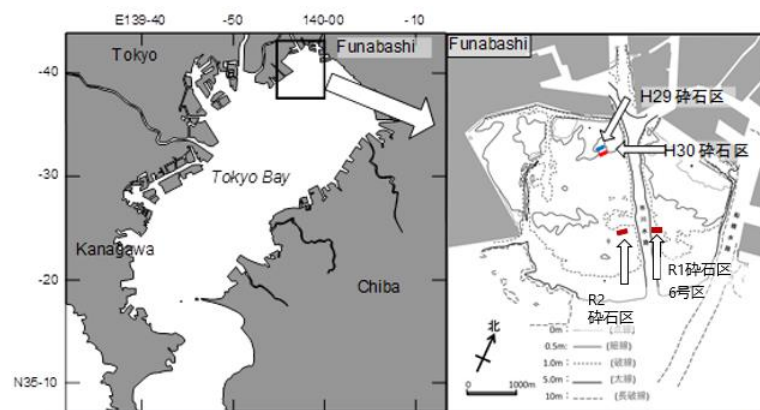


図 1 碎石覆砂実施場所

表 1 碎石覆砂実施状況

試験区	設置時期	規模
H29 碎石区	H29 年 6 月	25×60 m
H30 碎石区	H30 年 6 月	25×60 m
R1 碎石区	R1 年 6 月	25×40 m (2 か所)
R2 碎石区	R2 年 7 月	40×50 m

2 今年度の取組

船橋市漁協活動グループ碎石覆砂協議会によると、令和 3 年 6～9 月に碎石区で約 330 kg のアサリが漁獲されましたが、令和 3 年 9 月以降は資源量の減少により操業は休止しています。近年は夏ごろまでにアサリは消滅しています（三番瀬全体と同様の傾向です）。

アサリの減少原因としては、碎石の上に 10 cm 程度堆積している砂泥の影響で、碎石の保護効果が十分に機能せず、砂泥内に生息しているアサリが波浪や食害等により減耗している可能性が疑われています。そこで、貝桁網で小規模に耕うんしましたが、底質が改善されなかったため、今後は大まきによる耕うんを検討するとのことです。